

**ADVANTEST®**

# 2018年度（2019年3月期） 決算説明会

2019年4月25日  
株式会社アドバンテスト

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

# ご注意

---

## 会計基準について

- 本プレゼンテーション資料に記載されている実績や見通し数値は、国際会計基準（IFRS）に基づいて作成しています。

## 将来の見通しに関する記述について

- 本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれていません。
- これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているもの又は暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されています。

## 本資料の利用について

- 本プレゼンテーション資料に記載されている情報は、各国の著作権法、特許法、商標法、意匠法等の知的財産権法その他の法律及び各種条約で保護されています。事前に当社の文書による承諾を得ない限り、法律によって明示的に認められる範囲を超えて、これらの情報を使用（改変、複製、転用等）することを禁止します。



# 2018年度決算報告

常務執行役員 藤田 敦司

# FY18業績ハイライト

---

- 半導体の高性能化や信頼性保証強化需要の高まりに呼応し、旺盛なテスト需要が通期持続
- 半導体在庫調整など、事業環境が下期悪化したものの、過去最高の受注高を記録
- 高水準な需要に追従すべく生産・サポート体制の強化に努め、過去最高の売上高を達成
- 業務効率の改善などにも努めた結果、当期利益、ROE、年間配当金も過去最高

# FY18業績概要

(億円)

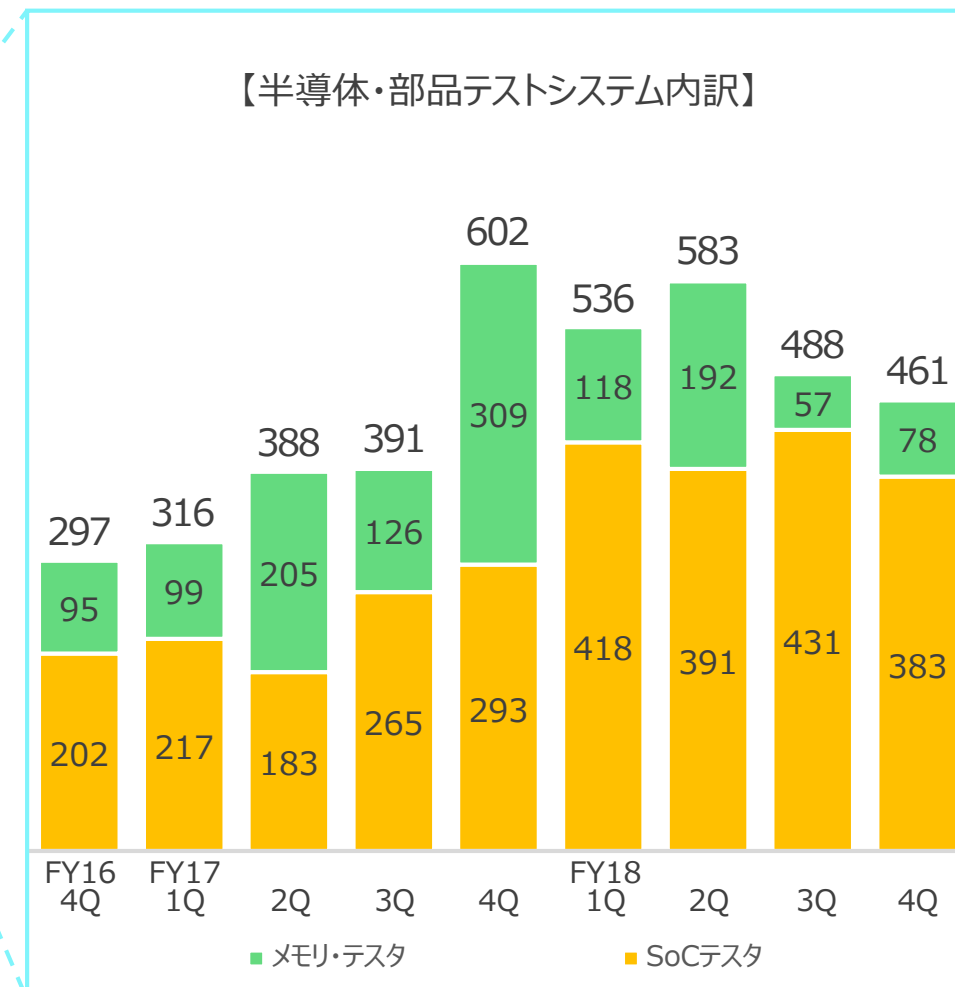
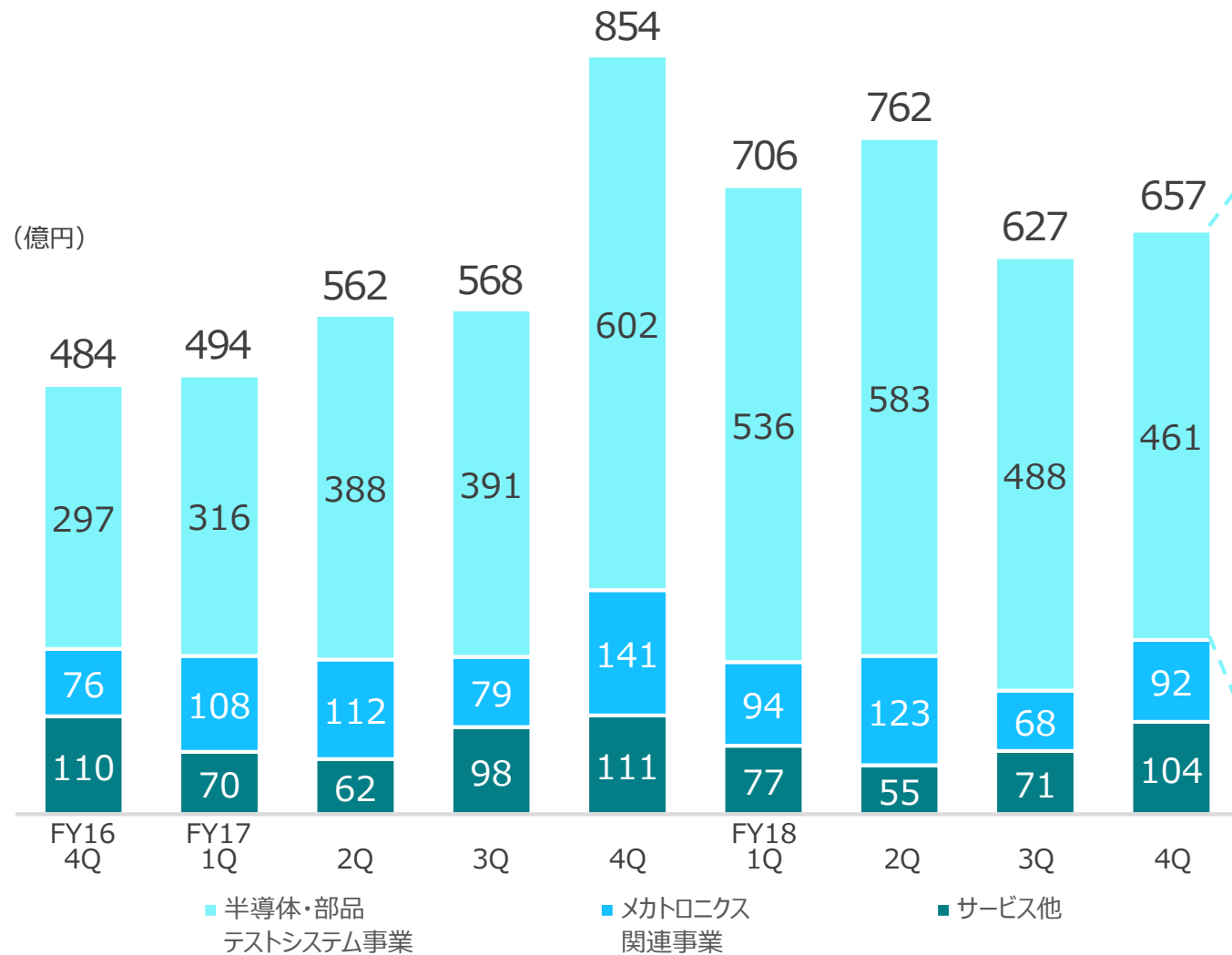
	FY17 実績	1月時点 予想	FY18		
			実績	前年同期比	
				増減額	増減率
受注高	2,478	2,650	2,752	+274	+11.1%
売上高	2,072	2,780	2,825	+752	+36.3%
営業利益	245	630	647	+402	+2.6倍
営業利益率	11.8%	22.7%	22.9%	+11.1pts	
税引前利益	243	640	662	+419	+2.7倍
当期利益	181	545	570	+389	+3.1倍
当期利益率	8.7%	19.6%	20.2%	+11.5pts	
IFRS第15号適用に伴う 期首受注残の調整		▲30	▲30		
Astronics社SLT事業譲受に伴う 受注残の増加			+24		
受注残	828	668	749	▲79	▲9.5%
為替レート	1米ドル	111円	110円	110円	1円 円高
	1ユーロ	129円	130円	129円	-
1株当たり配当額 (年間)	32円	88円	92円	60円 増配	

# 四半期業績推移

(億円)

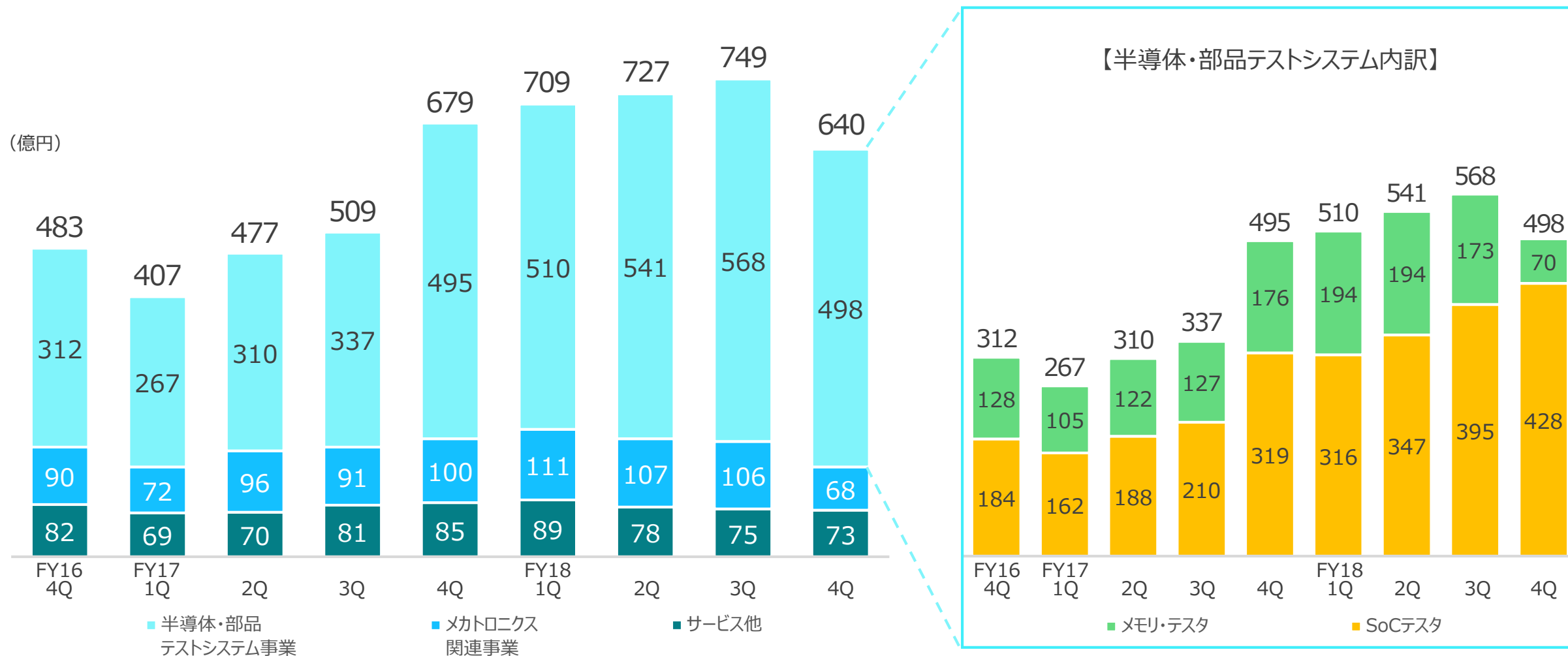
	FY17				FY17				FY18			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	前期比		前年同期比	
									増減額	増減率	増減額	増減率
受注高	494	562	568	854	706	762	627	657	+29	+4.7%	▲198	▲23.1%
売上高	407	477	509	679	709	727	749	640	▲110	▲14.6%	▲40	▲5.9%
売上総利益	206	249	232	379	382	389	425	344	▲81	▲19.1%	▲34	▲9.1%
売上総利益率	50.6%	52.1%	45.8%	55.7%	53.9%	53.6%	56.8%	53.8%	▲3.0pts		▲1.9pts	
営業利益	22	52	32	139	158	180	207	102	▲105	▲50.8%	▲36	▲26.3%
営業利益率	5.5%	10.9%	6.4%	20.4%	22.3%	24.7%	27.6%	15.9%	▲11.7pts		▲4.5pts	
税引前四半期利益	16	48	34	145	165	186	206	105	▲101	▲49.1%	▲40	▲27.7%
四半期利益	10	39	26	106	139	162	179	90	▲90	▲50.1%	▲17	▲15.9%
四半期利益率	2.4%	8.2%	5.0%	15.6%	19.6%	22.4%	23.9%	14.0%	▲9.9pts		▲1.6pts	
IFRS第15号適用に伴う 期首受注残の調整					▲30							
Astronics社SLT事業譲受に伴う 受注残の増加								+24				
受注残	509	594	653	828	795	830	708	749	41	+5.8%	▲79	▲9.5%
為替レート	1米ドル	112円	111円	112円	111円	108円	111円	113円	111円	2円 円高		-
	1ユーロ	121円	128円	132円	134円	131円	129円	130円	126円	4円 円高		8円 円高

# 四半期受注高 事業セグメント別



\*合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

# 四半期売上高 事業セグメント別

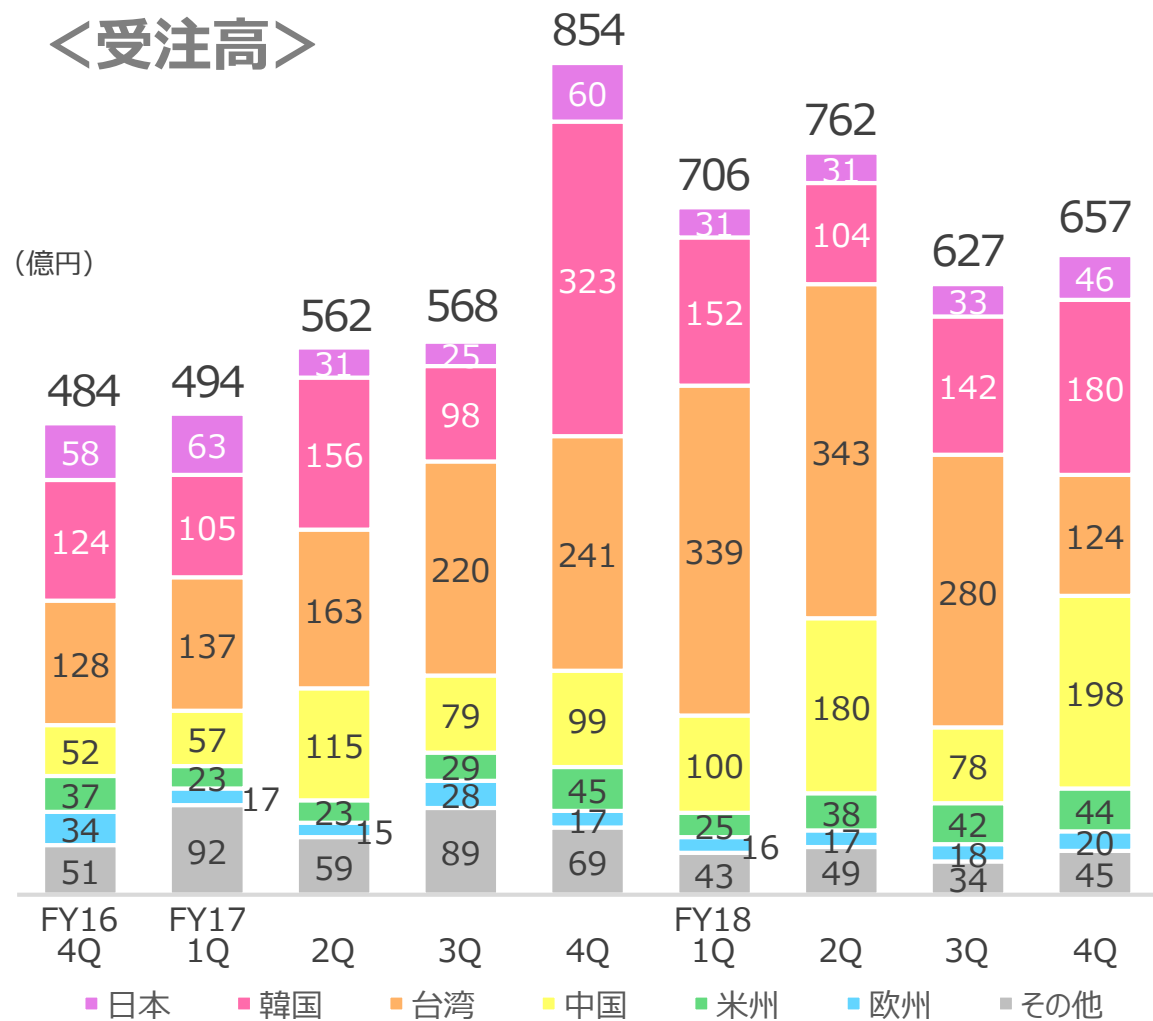


\*合計にはセグメント間の内部取引の消去分が含まれます

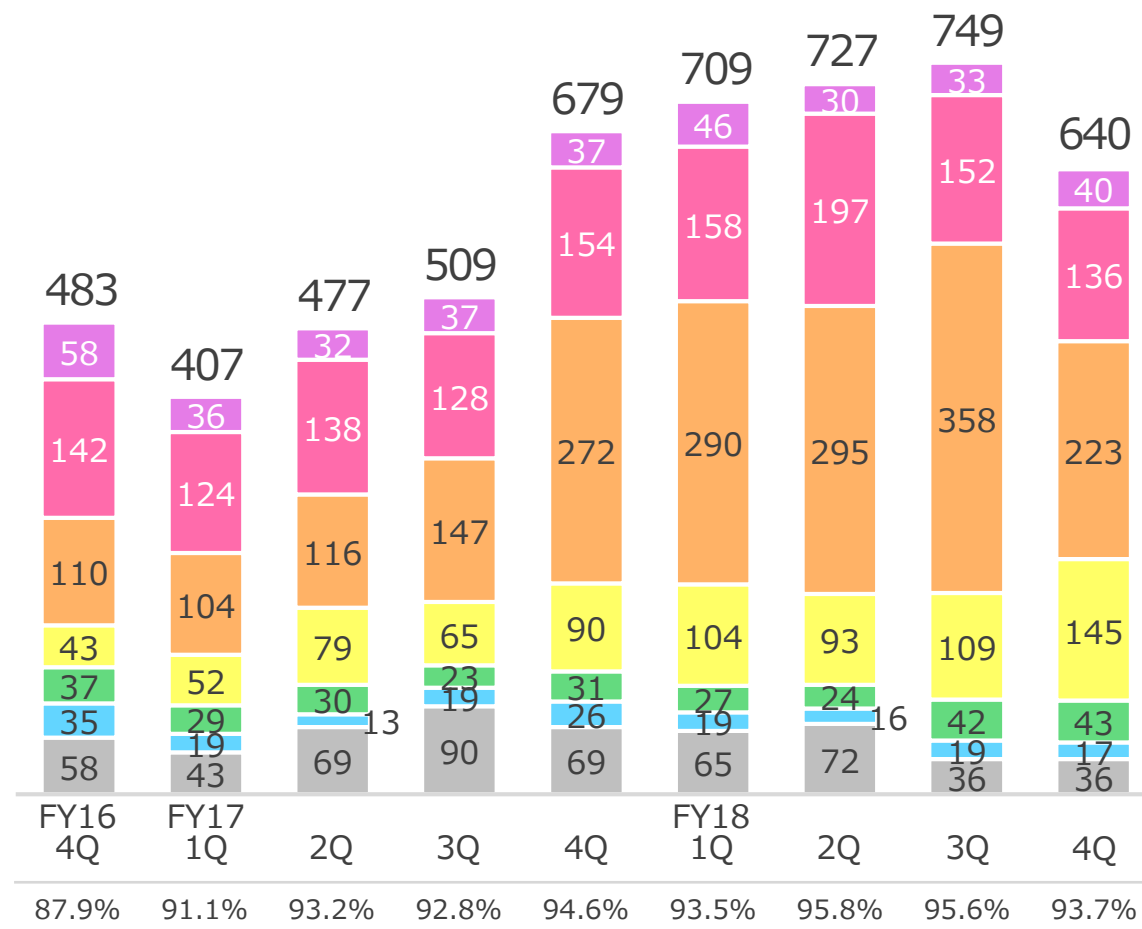


# 四半期受注高/売上高 地域(出荷先)別

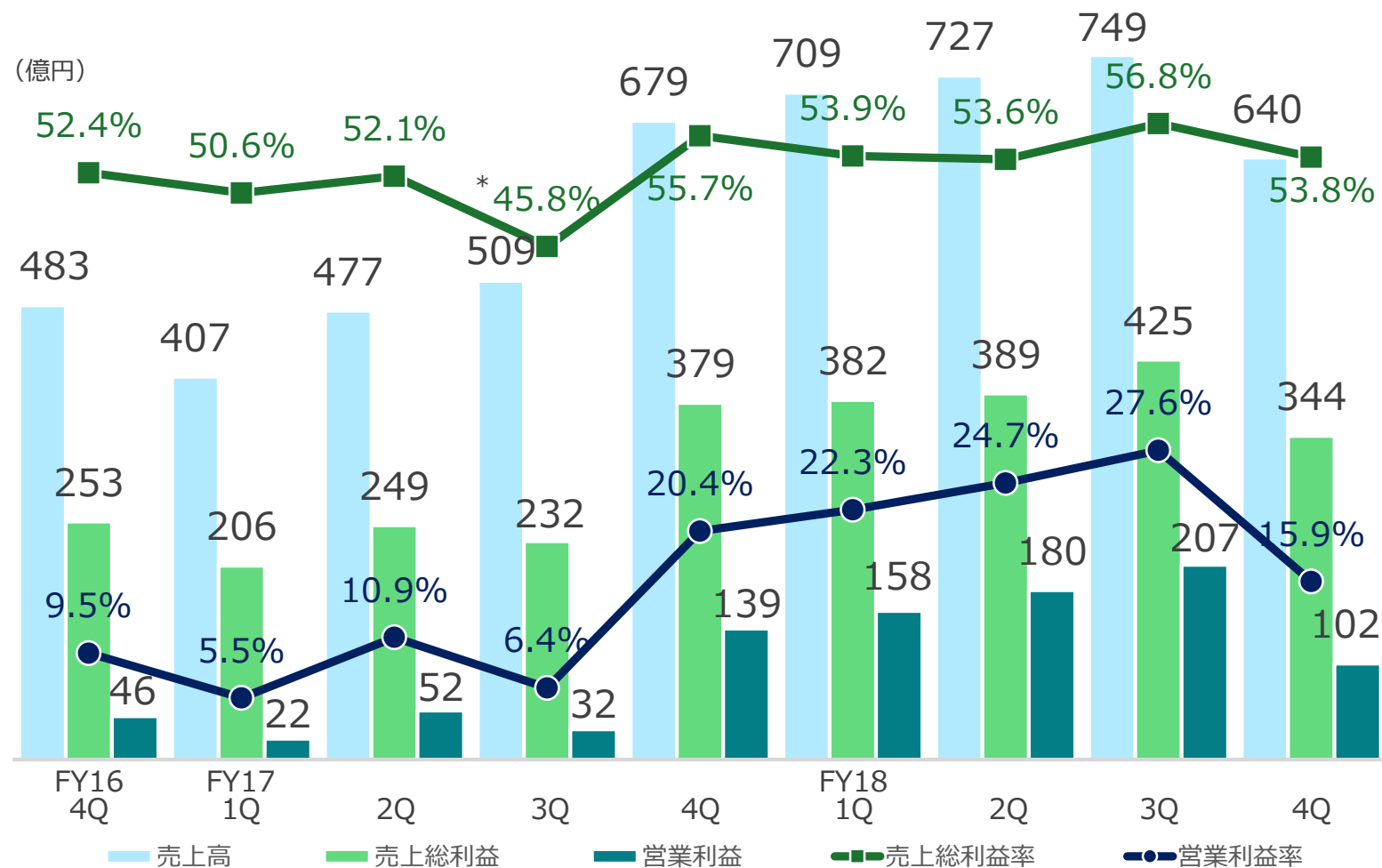
## <受注高>



## <売上高>



# 売上高/売上総利益/営業利益



\*FY17 3Qにナノテクノロジー事業の棚卸資産評価損(33億円)を計上しています。  
この評価損影響を除いたFY17 3Qの売上総利益率は、52.3%となります。

(億円)

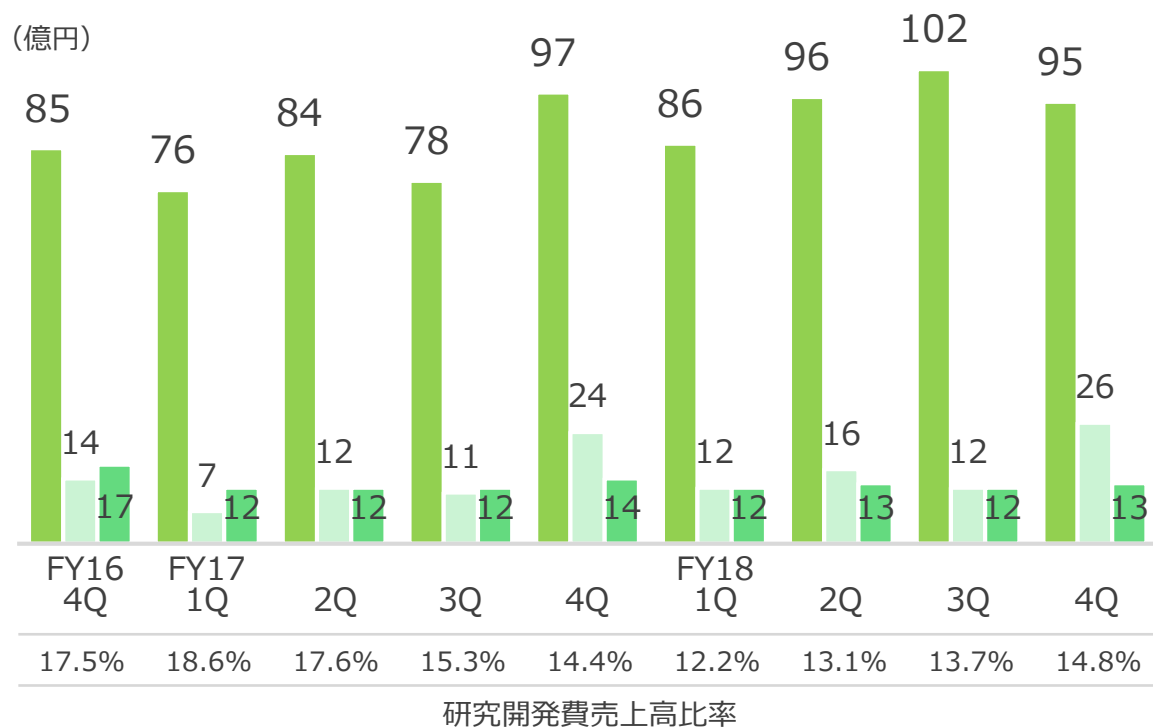
	FY17	FY18
売上高	2,072	2,825
売上総利益	1,066	1,540
売上総利益率	51.4%	54.5%
販管費等	821	893
営業利益	245	647
営業利益率	11.8%	22.9%

# 投資等/キャッシュ・フロー

## <投資等>

- 研究開発費
- 設備投資
- 減価償却費

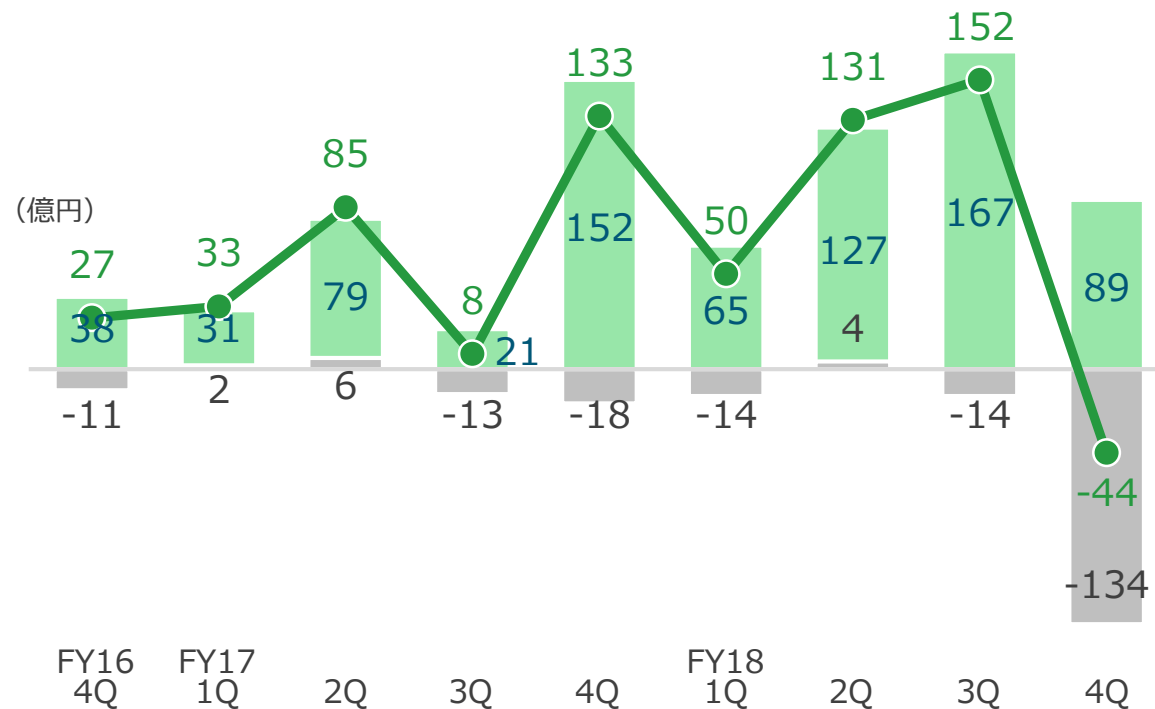
	FY17	FY18
研究開発費 売上高比率	335 16.2%	379 13.4%
設備投資	54	66
減価償却費	50	50



## <キャッシュ・フロー>

- 営業キャッシュ・フロー
- 投資キャッシュ・フロー
- フリー・キャッシュ・フロー

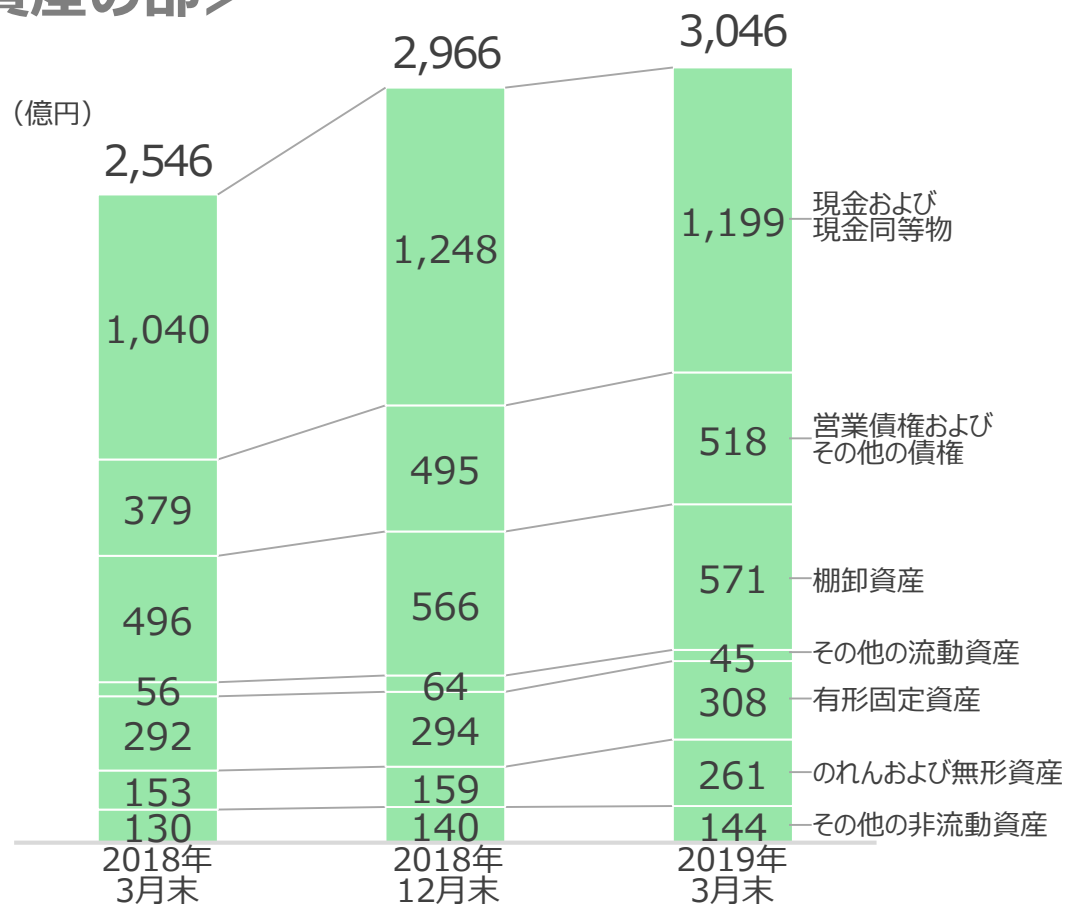
	FY17	FY18
営業キャッシュ・フロー	283	448
投資キャッシュ・フロー	▲23	▲159
フリー・キャッシュ・フロー	259	289



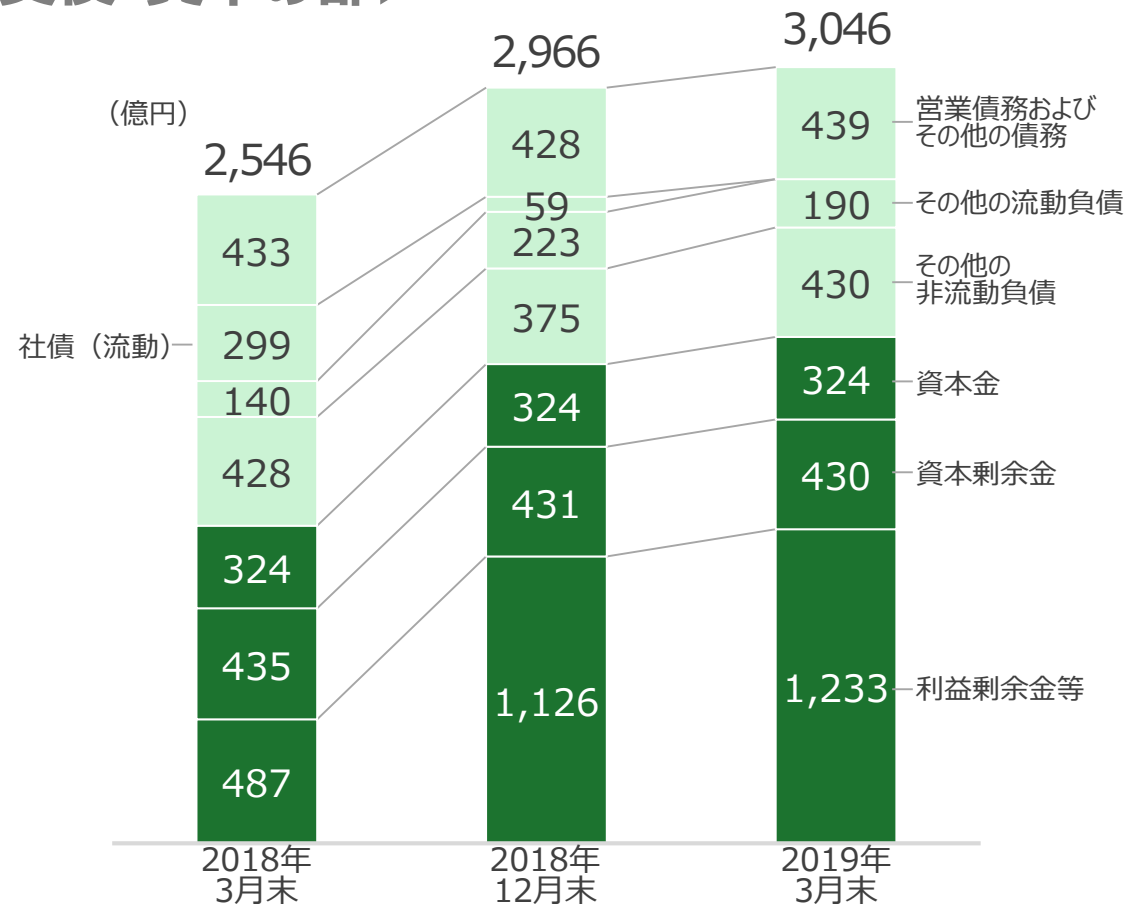
\*フリー・キャッシュ・フロー = 営業キャッシュ・フロー + 投資キャッシュ・フロー

# 連結財政状態

## <資産の部>



## <負債・資本の部>



親会社の所有者に 帰属する持分	1,246	1,881	1,987
親会社所有者 帰属持分比率	49.0%	63.4%	65.2%

# 2019年度事業見通しと中期経営計画の進捗

---

代表取締役 兼 執行役員社長 吉田 芳明

# テスト市場予想 <19年4月時点の見方>

## CY18実績

- 半導体の性能・信頼性高度化を背景に、多くの半導体メーカーが活発なテスト投資を毎年維持
- 販売動向を精査し、CY18市場規模を1月時点の推定値から増額修正

## CY19予想

- 世界経済の不透明感が濃い中、テスト市場も減速局面入り。環境改善時期はFY19下期を見込む
- 次期先端半導体のテスト能力増強投資に牽引され、CY20のテスト市場規模は再び拡大へ

	CY18実績	CY19推定	変化率
SoCテスト市場	約\$2,550M (1月推定値:約\$2.4B)	約\$2,000M (1月推定値から変更なし)	前年比 約20%減
メモリ・テスト市場	約\$1,150M (1月推定値:約\$1.0B)	約\$550-650M (1月推定値:約\$700-800M)	前年比 約40-50%減

# FY19業績予想

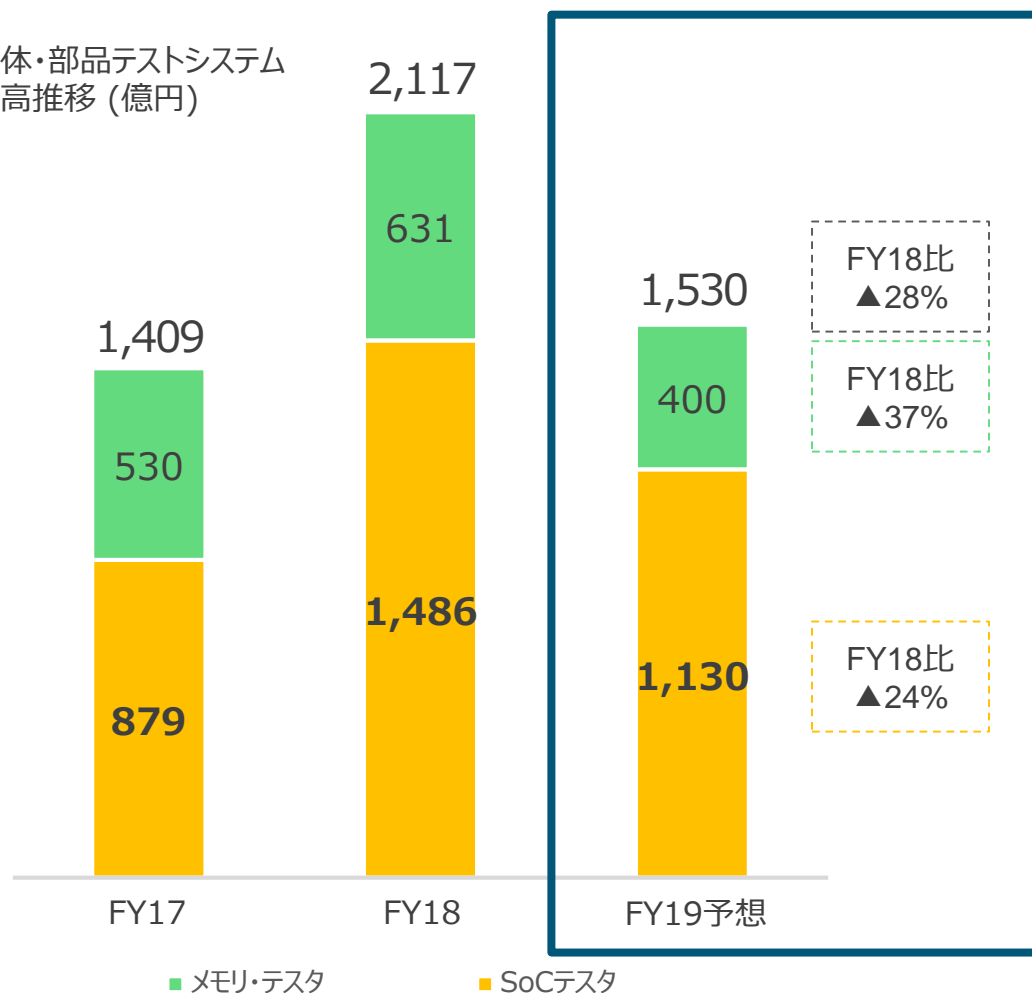
(億円)

	FY18 実績	予想	FY19	
			前年度比	
			増減額	増減率
受注高	2,752	2,300	▲452	▲16.4%
売上高	2,825	2,300	▲525	▲18.6%
営業利益	647	300	▲347	▲53.6%
営業利益率	22.9%	13.0%	▲9.9pts	
税引前利益	662	310	▲352	▲53.2%
当期利益	570	260	▲310	▲54.4%
当期利益率	20.2%	11.3%	▲8.9pts	
受注残	749	749	-	-
為替レート*	1米ドル	110円	110円	-
	1ユーロ	129円	130円	1円 円安
ROE	35.3%	12.6%	▲22.7pts	

\*為替レート変動が当社のFY19営業利益に与える影響の最新見通しは、対米ドルが1円安時プラス5億円です。対ユーロはマイナス1億円です。

# FY19見通し（事業別）

半導体・部品テストシステム  
売上高推移（億円）



## 半導体・部品テストシステム事業

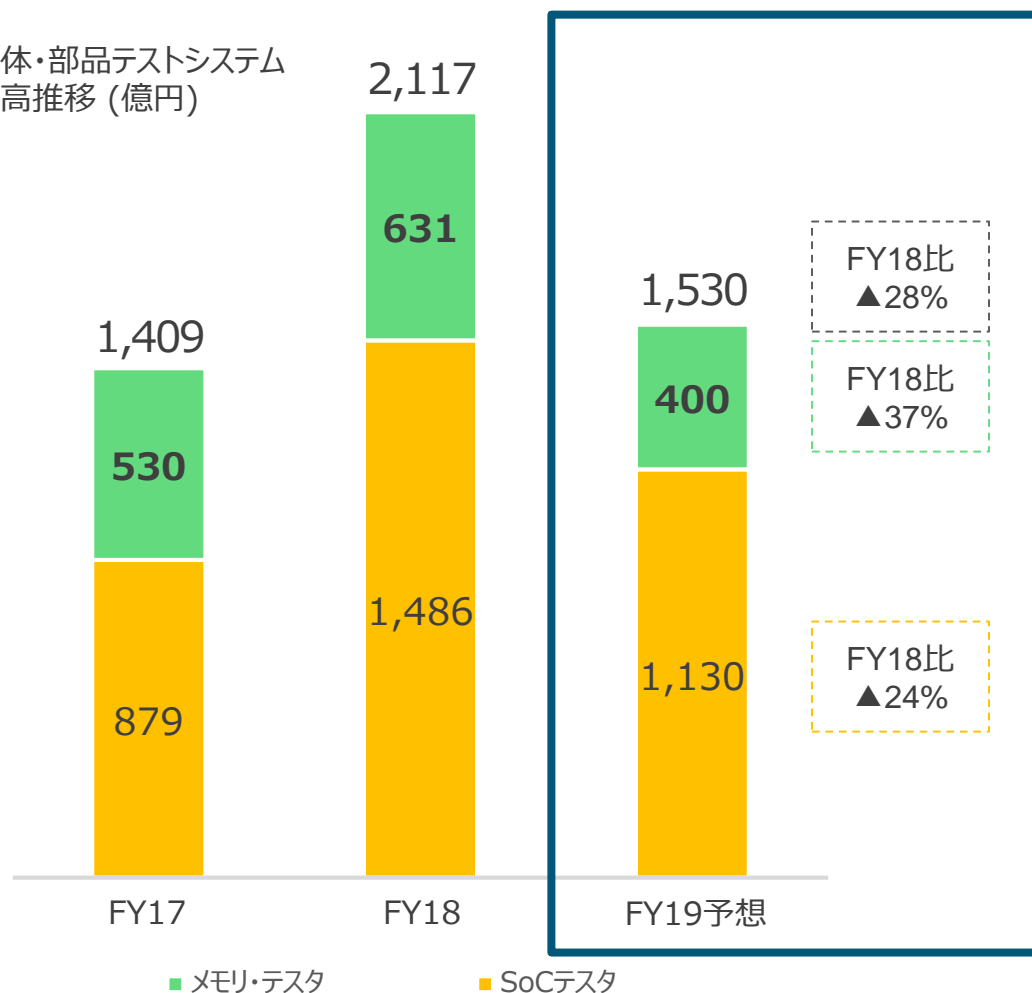
### <SoCテスト>

- 好調だったFY18比では減収予想となるが、半導体高性能化の進展がSoCテスト需要水準を下支え
- アプリケーション・プロセッサやイメージセンサなど、スマートフォン端末高性能化を支える半導体へのテスト能力増強トレンドが持続
- EUV本格立ち上げも、ハイエンド・プロセッサ向けテスト需要をサポート
- 5G関連の需要本格化はCY20以降を想定



# FY19見通し（事業別）

半導体・部品テストシステム  
売上高推移（億円）



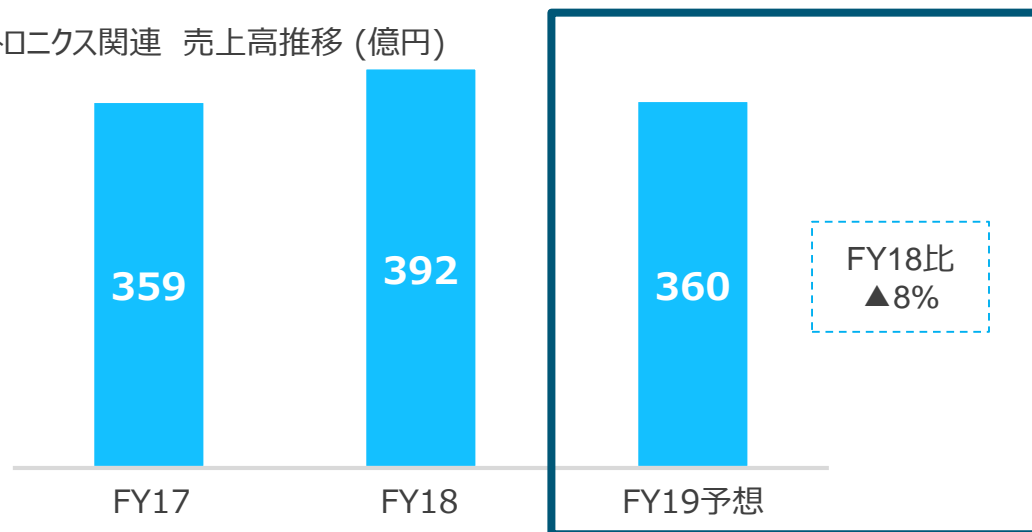
## 半導体・部品テストシステム事業

### <メモリ・テスト>

- メモリ在庫調整の影響下、メモリ・テスト需要は足元低調
- テスト需要回復時期はビット需要の回復ペースに依存するが、現状では下期の回復を見込む
- とくにDRAMで、微細化、DDR5シフト、HPC向け高速品の需要立ち上がりなど、テストにポジティブなトレンドを見込む
- NVMは、NAND多層化投資に関連した需要が中心となる見通し

# FY19見通し（事業別）

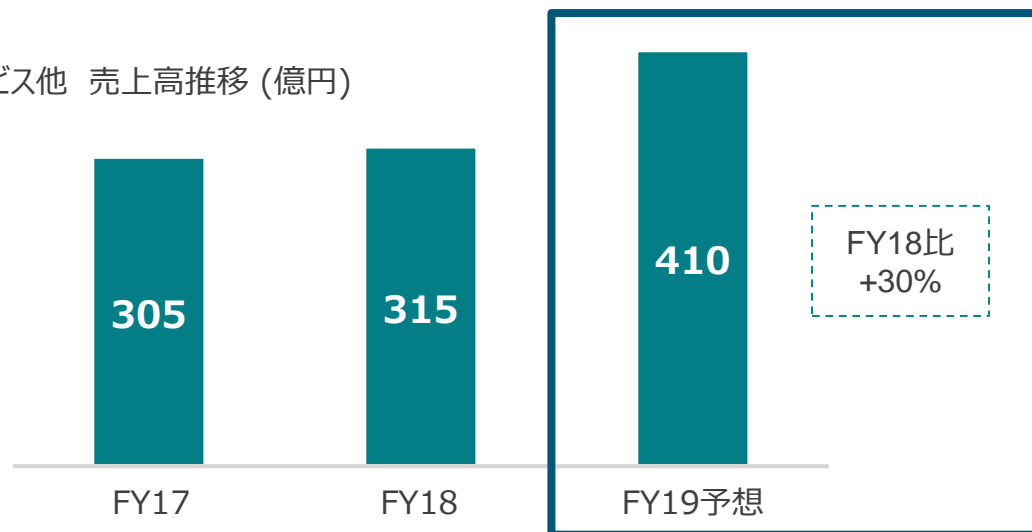
メカトロニクス関連 売上高推移（億円）



## メカトロニクス関連事業

- メモリ顧客のテスト投資減速に伴い、DI製品は減収予想
- EUV関連需要の取り込みによりナノテク製品は増収見通し

サービス他 売上高推移（億円）



## サービス他事業

- 顧客内のテスト稼働は一定維持されており、中核事業であるフィールド・サービス売上の底堅い推移を見込む
- Astronics社のSLT事業の買収効果などにより、セグメント増収を予想

# 当社の中長期経営方針

## 「グランドデザイン」(長期経営方針・FY18-27)

### <長期経営目標>

「売上高3,000億円～4,000億円の達成」

- 成長分野へのフォーカス、顧客とのパートナーシップ強化でシェアを年1%ペースで改善 (CY17実績:36%→CY27目標:46%)
- 新規事業として、現在のコアビジネスの周辺分野の開拓

### <コスト、利益構造>

- 売上成長を目指すにあたり、コスト構造のバランスにも配慮

	3,000億円レベルでの コスト構造モデル
売上高	3,000億円
売上原価率	46%
売上高販管費比率	32%
(うちR&D費比率)	13%
営業利益率	22%

## 中期経営計画(FY18-20)

- 製品需要の年ごとのアップダウンは避けられないため、3カ年平均で数値目標を設定
- 新たなテスト需要に卓越したソリューションを提供し、売上高と市場シェアを伸長
- 中長期の売上成長に向け、積極的なR&D投資・M&A
- 半期連結配当性向30%を基本としつつ、成長投資見通しを勘案した上で総株主還元を機動的に検討

	中期経営計画 (FY18-20 平均)	
	保守的シナリオ	ベース・シナリオ
半導体試験装置市場 成長率	年0%	年4%
売上高	2,300億円	2,500億円
営業利益率	15%	17%
ROE	15%	18%
1株当たり当期利益(EPS)	135円	170円

# 中長期成長に向けた取り組み

## FY18に実施した重要施策

- 5Gへの注力と顧客獲得
- 中長期を見据えた戦略実行のための社内組織変更
  - テスタ開発部門のグローバル統合
  - AIやデータアナリティクスの活用をはじめとした、新たなテストビジネスの探索チームを組成
- 近縁事業領域への拡大への一歩として、米Astronics社のシステムレベル・テスト事業部門を買収
- 事業マネジメント体制強化のため、ROICベースの事業管理・評価ツールを導入

システムレベル・テスト・システム  
ATS5034



## FY19重点施策

- 業界をリードする最重要顧客とのエンゲージメント強化
- 市場シェアの維持・拡大
- 中長期的成長の観点での人員増強、人材開発強化
  - R&D人員、重点地域におけるマーケティング/セールス/SE/サービス要員を増強
- オペレーショナル・エクセレンスに向けた業務効率化
- ROICを活用した事業運営の高度化

### <開発投資・設備投資の見通し>

	FY18実績	FY19予定
研究開発費	379億円	370億円
設備投資	66億円	100億円
減価償却費	50億円	60億円

# 市場シェアの状況

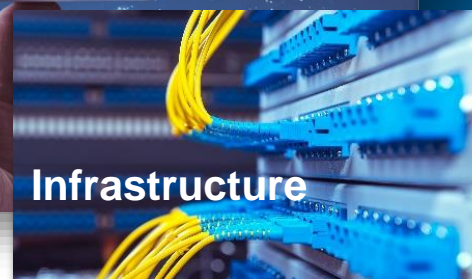


<SoCテスト> CY18市場シェア 52% (前年比 +22pts)

<メモリ・テスト> CY18市場シェア 58% (前年比 +1pt)



# 5Gは中長期にわたってテスト需要を牽引



- 5Gは通信技術にとどまらず、情報化社会のあり方を再定義する可能性のある技術基盤
- 広範な領域でデジタル革命の進展を促し、中長期かつ持続的に半導体需要・テスト需要を押し上げる存在となると予想

# 初期の5Gとテスト需要

通信用半導体の数量増・性能向上

スマートフォン全体の高性能化

データセンター能力向上

5G初期における  
通信用半導体テストの需要増  
\$200M～400M/年(当社推定値)

5G基地局用  
半導体

5Gの伝送距離/指向性特性により  
4G比で数量増加

5Gベースバンド・  
プロセッサ

マルチモード・マルチバンド対応、  
微細化に伴うテスト需要増

5G RF半導体

ビームフォーミング対応のため  
4G比で数量増加

アプリケーション・  
プロセッサ

さらなる微細化・高性能化に伴う  
テスト項目増

DRAM

微細化・LPDDR5採用に伴う  
テスト需要増

NANDフラッシュ

大容量化に伴う  
テスト時間増

サーバー用  
プロセッサ

さらなる微細化・高性能化に伴う  
テスト項目増

サーバー用DRAM

DDR5、HBM、GDDRなど高速/  
広帯域メモリ増に伴うテスト需要増

ストレージ・メモリ

大容量化、高速化に伴う  
テスト需要増

5Gは半導体の高性能化と低消費電力化＝テスト難易度上昇・テスト複雑化を加速

テスト課題の顕在化とともに、当社に対するソリューション依頼が増加中

# 中期経営計画の初年度進捗

	FY15-17 平均	中期経営計画 (FY18-FY20 平均)		FY18実績
		保守的シナリオ	ベース・シナリオ	
売上高	1,751億円	2,300億円	<b>2,500億円</b>	<b>2,825億円</b>
営業利益率	9%	15%	<b>17%</b>	<b>22.9%</b>
ROE	12%	15%	<b>18%</b>	<b>35.3%</b>
1株当たり当期利益(EPS)	74円	135円	<b>170円</b>	<b>302円</b>

- 中期経営計画（FY18-20）初年度となるFY18は、テスト市場拡大と市場シェア改善により、ベース・シナリオで掲げた全てのKPIで目標値を超過。3か年計画の達成に向け、力強く進捗できた
- 半導体の高性能化やテストの重要度増進など、当社の中長期的成長を支える市場トレンドに変化はない。世界経済の不透明感がテスト市場にも波及するなかFY19は減収減益を予想するが、FY20は業績回復を見込む
- 中期経営計画としては当初の目標値を据え置くとともに、引き続き目標値の達成に努める